

92.9.11 No. 3655



日刊 労働千葉

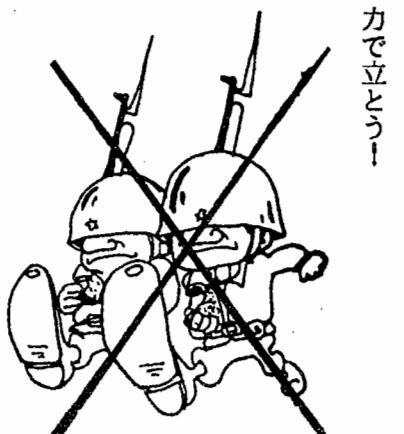
毎日新聞

(夕刊) 9月8日

参加の5原則はどこへ
武装解除も
ボル・ポート派
ならぬまま

| | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 九・一六 防衛戦抗議行動 | 九・一三 PKO伊丹闘争 |
| 停戦監視要員派遣に対する闘いであり、当日三河台にて一五時より阻止集会 | 派遣される先遣隊PKO伊丹駐屯地に集め閲兵式を行うことの反対闘争 |

| | |
|---|---------------------------------|
| 一〇・二二 国際反戦デ | 九・二三 小牧現地闘争 |
| 自衛隊海外派兵PKOアジア侵略に対する闘い、反戦デーの持つ意味の大性は大きい。 | 「シンポ」粉碎に向け、反戦闘争の皆々三里塚闘争の意味は大きい。 |



反戦・運動保安確立！ 反戦・反核を担う労働運動を！

政府・自民党は、九月八日PKO協力法に基づき、カンボジア・アンゴラに派遣する「国際平和協力隊」の業務を定めた実施計画を決定した。

その規模は、①停戦監視要員八名を九月一七・一八日頃、②文民警察要員七五名を来月中旬、③施設部隊六〇〇名については、先遣隊として九月二三日に三〇名、来月一日に一九〇名、本隊三八〇名を来月一三日に派遣するとしている。

又、その施設部隊の輸送・補給等にあたる海上・航空自衛隊員を含め、「平和協力隊員」として総数一二〇三名がこれにあたると言うのだ。

そして停戦監視要員・施設部隊とともに、「恒常化」を策していることは明白なのだ。

要は、何がなんでも自衛隊を部隊として海外に派兵するということが前提になり、半年ごとの交代を「通常化」させることによって、それを「国際貢献」の名の下に「当然」のことと意識されることに重点が置かれているのだ。

われわれ労働千葉は、自衛隊海外派兵阻止の立場から、反戦行動共同委員会の呼びかけに応え、全国各地で展開される出兵阻止の闘いへ今こそ立ちあがらなければならぬ。

闘いの日程は…

現地カンボジアでは、依然としてボル・ポート派が武装解除を拒否しているという現実からも、PKO設部隊六〇〇名についても、PKOは依然としてボル・ポート派が武装解除を拒否しているといふ。

そしてこの「一年間」という期間も、「恒常化」を策していることは明白なのだ。

われわれ労働者として、元従軍慰安婦をはじめアジア人民による日本の戦争責任追及の闘いに応じたのだ！

われわれひ労働者として、元従軍慰安婦をはじめアジア人民による日本の戦争責任追及の闘いに応じたのだ！

われわれひ労働者として、元従軍慰安婦をはじめアジア人民による日本の戦争責任追及の闘いに応じたのだ！

われわれひ労働者として、元従軍慰安婦をはじめアジア人民による日本の戦争責任追及の闘いに応じたのだ！

われわれひ労働者として、元従軍慰安婦をはじめアジア人民による日本の戦争責任追及の闘いに応じたのだ！

われわれひ労働者として、元従軍慰安婦をはじめアジア人民による日本の戦争責任追及の闘いに応じたのだ！

われわれひ労働者として、元従軍慰安婦をはじめアジア人民による日本の戦争責任追及の闘いに応じたのだ！

自衛隊基地への出兵反対行動を！

カンボジア出兵阻止

については、「勤務条件」を考慮し、派遣六ヶ月後に人員を交代させ、期間としては今月一一日から来年一〇月三一日までとしている。

その意味において、カンボジアの決定によって法的な枠組みから、実際に自衛隊がアジア侵略のために、部隊としてうつてでていくことが開始されるのである。

その意味において、カンボジアの決定によって法的な枠組みから、実際に自衛隊がアジア侵略のために、部隊としてうつてでていくことが開始されるのである。

第一線の戦闘部隊を支援する工兵は戦場裏方であるが、工兵なくして現代戦は成り立たない。前進する時は先頭に立ち、道を直し、橋を架け、地雷を処理しながら進む。後退するときはしながりを務め、橋を破壊し、地雷を埋めて敵の追尾を妨害する。常に困難に立ち向かう工兵。だから軍隊でいちばん大きな顔をしているのは工兵なのだ。（「日本の防衛戦力・陸上自衛隊」読売新聞社刊）北富士資料より。